



ほんなこてゆたたり



文責 校長 平井 敏博

令和4年度教育目標 目指すは、“とことん学び続け、とことん学び合う人”

夏休みの“学びの足跡”

～各ご家庭でのエピソードも、お聞きしたいです。～

各学年のフロアには、夏休みの作品が展示されています。立体作品や自由研究のレポート、各種コンクールへの出展、作文等々、子ども達の“学びの足跡”です。

視点をちょっと変えて、保護者目線で、自分の子育て期を振り返ってみると、「いつになったら、本気を出すのやら。」と思いながら、のんきな我が子に呆れて見ていたことも、思い出します。夏休みの終盤には、各ご家庭で、いろいろなエピソードもあったのかもしれません。

作品を見ながら、この経験を、次に必ず活かしたいと思いました。すべて、自分で計画し、それを実行できた人は、自信につながりたいです。自由研究の延長も、あるかもしれません。逆に、失敗経験だったとしたら、2学期の生活に、具体的な改善策を立てる等、活かせると思います。

各作品にある背景を、しっかり想像しながら、学校でも活かしていきます。



形を工夫した、色鮮やかな立体作品が、並んでいました。家の玄関先や靴箱の上に、子ども達の作品があると、ホッと和みます。家に持ち帰っても、大切にすることで、作品への愛着が高まったり、次の作品づくりの意欲につながったりすると思います。



様々なテーマの自由研究が並んでいます。自然科学、地域学習、歴史研究、人物紹介等、いろいろです。柔道の技の型紹介もあります。ここで終わらせず、次の学びにどうつなげていくかが、大人の腕の見せ所ですね。



各委員会への感謝の気持ちを

～大切な“社会とのつながり”を学ぶ場～

本校には、プロジェクト、集会、ボランティア、保健、給食、図書、スポーツ・安全、情報の8つの委員会があり、日々、活動しています。

今、校舎階段の壁に、各委員会への感謝の手紙が、掲示されています。



全学年から、日頃、学校のために働いている各委員会へ、感謝の気持ちが綴られています。

日頃の学校生活が、当たり前のように進んでいくのは、いろいろな人達から、見えるところ・見えないところで、惜しみなく理解と協力をいただいている結果です。5、6年生の委員会活動も、まさに、その一つです。学校という社会に、直接、関わる機会です。子ども達は、はっきり意識をしていないかもしれませんが、自分の働きが、多良小学校という社会を、しっかりと支えているわけです。そのことに、気付くためにも、今回の感謝の手紙の取組は、大切な取組だと考えます。

目指すのは、自分、まわりの人、社会を大切にして、自分の持ち味を生かしながら、積極的に関わることができる人です。学校は、そのために、様々な学びの機会が、学校生活の中にたくさんあると思います。

※ 学習指導要領では、学校教育で取り組む内容として、特別活動が明示されています。特別活動は、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事で構成されており、委員会活動は、児童会活動の一環です。

いっしょに考えたいコーナー

“できない” “わからない” “思い通りにいかない” や “失敗” 等、日常茶飯事ですよね。社会に出て、そのような事態に出くわした時、たいへん困っている人が多いという話を聞きました。つまり、落ち込んでしまって（へこんでしまって）、そこから回復できないというわけです。仕事を辞めたり、仕事全般に意欲をなくしたり、社会とつながることに消極的になったりすることも、多いようです。

そんな話を聞くと、“できない” “わからない” “思い通りにいかない” ことや、“失敗” 等に、どのように対応していけばいいのか、柔軟な時期に、しっかりと体験を通して身に付けてほしいと思います。学校は、そんな機会に溢れています。大人が肩代わりをするのではなく、かといって、目を離すわけでもなく、その機会を見逃さず、しっかりサポートしていきたいものです。自信をつけながら、大人の手から離していきたいと思っています。直接関わる大人が、知恵を出し合い、協働していきましょう。成功策や失敗策を、出し合えたらいいですね。